

矢作川流域治水プロジェクト2.0取組状況

令和 7年 3月 11日

国土交通省 中部地方整備局

豊橋河川事務所

流域治水プロジェクト2.0

～流域治水の加速化・深化～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

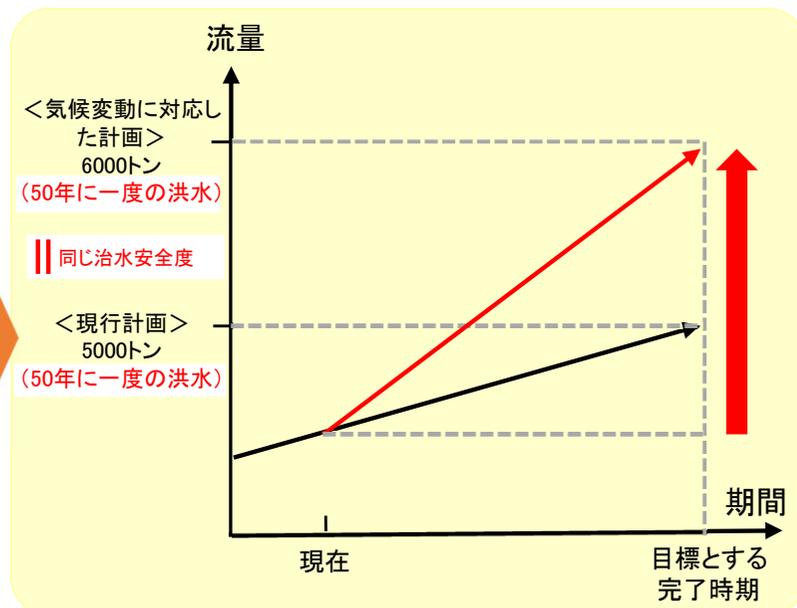
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

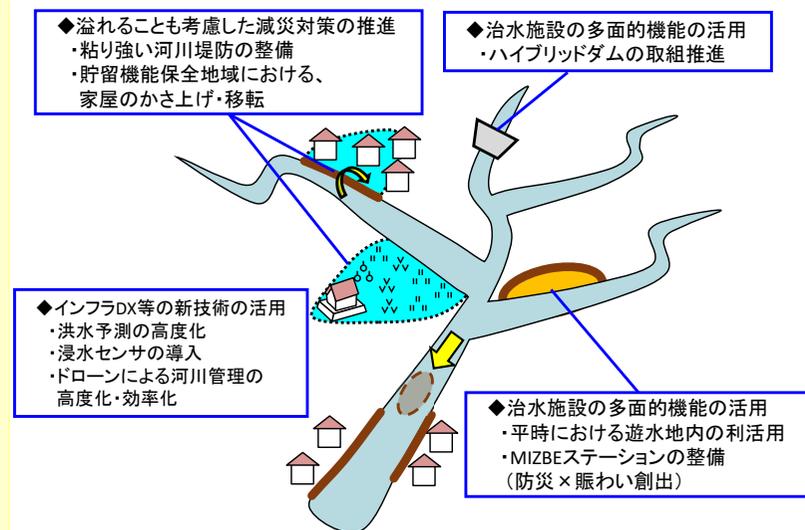
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、
目標流量を1.2倍に引き上げる必要

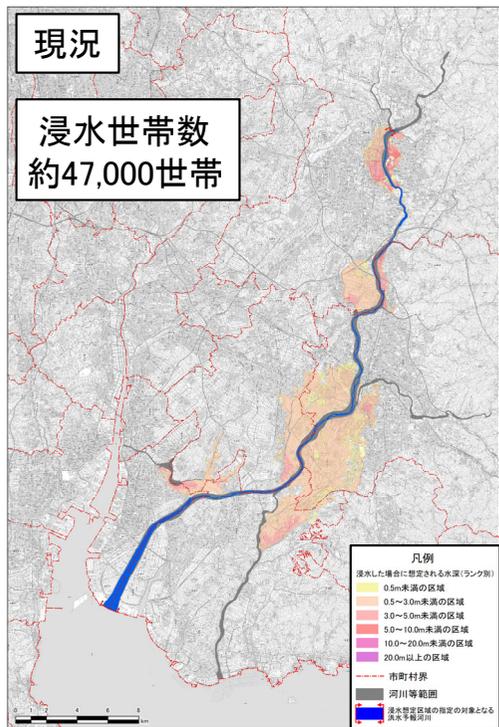
※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、
様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

気候変動に伴う水害リスクの増大

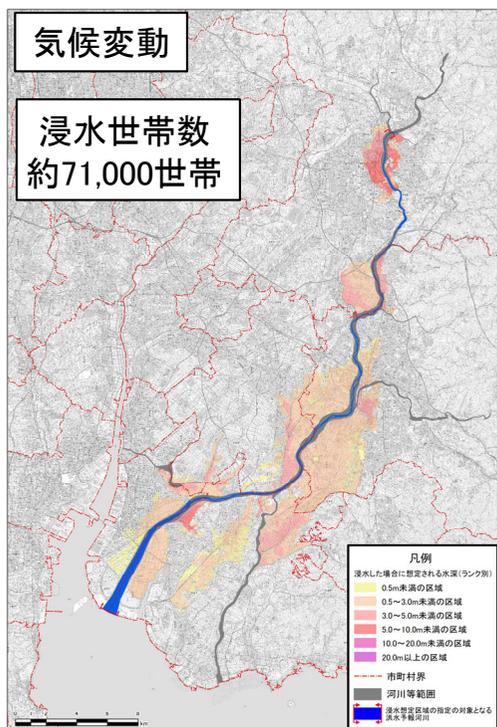
○整備計画で目標としている戦後最大の平成12年9月洪水(東海(恵南)豪雨)に対し、2°C上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、矢作川流域では浸水世帯数が約71,000世帯(現況の約1.5倍)になると想定され、事業の実施により、家屋浸水が解消される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大



＜現状＞

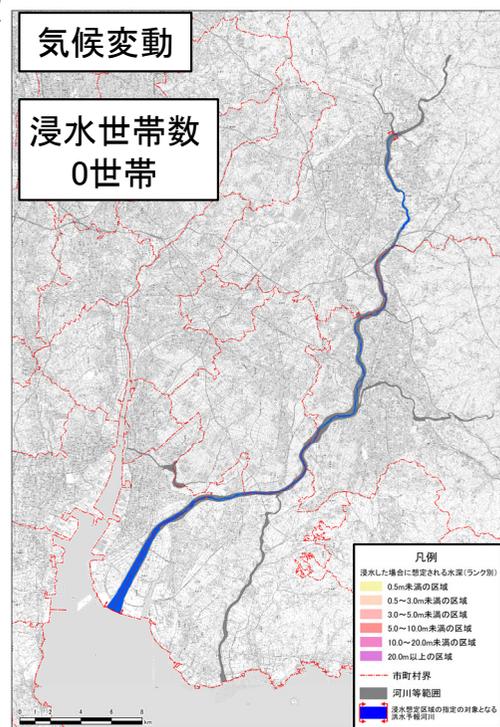
リスク増大



＜気候変動考慮(1.1倍)＞

【目標①】
KPI: 浸水世帯数
約71,000世帯
⇒0世帯

対策後



＜対策後＞

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。それに伴い、上記の浸水範囲も変更となる場合がある。

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の平成12年9月洪水規模に対する安全の確保

矢作川流域

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約71,000世帯の浸水被害を解消	河道掘削: 約530万m ³ 洪水調節施設: 既設ダムの有効活用検討 横断工作物の改築	順次実施
被害対象を減らす	市町村	立地適正化計画による居住誘導	立地適正化計画に基づく防災指針の作成	概ね10年
被害の軽減・早期復旧・復興	国	被害の早期復旧・復興	防災拠点等の整備、広域防災ネットワークの構築、排水作業準備計画の検証	概ね15年
	市町村	避難確保計画作成し、実効性ある避難により、被害を軽減	要配慮者施設の避難確保計画作成の促進	概ね10年

【目標②】市町における内水被害の軽減

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	豊田市	市内の水害リスク軽減	雨水貯留浸透施設の設置	順次実施
	幸田町	町内の水害リスク軽減	農業用排水機場の整備、更新	順次実施
被害対象を減らす	豊田市	市内の水害リスク軽減	浸水実績区域等での規制強化に向けた検討	概ね30年
被害の軽減・早期復旧・復興	西尾市	被害の軽減・早期復旧・復興	貯留区域内の避難路整備検討(冠水対策)	概ね30年

矢作川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図】

～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、以下の取り組みを一層推進していくこととし、更に矢作川の国管理区間においては、**気候変動(2℃上昇)下でも目標とする治水安全度を維持するため、河川整備計画で目標としている平成12年9月洪水(東海(恵南)豪雨)に対し2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水において、安全に流下させることを目指す。**
- 日本の産業を支える「ものづくり拠点」であるが、狭窄部や台地・山地に挟まれた地域に都市機能や産業が集積し、水害リスクが高い流域であることから、**既設ダムの有効活用検討**や**河道掘削等の河道改修**、被害対象を減少させるための対策、広域防災ネットワーク構築等のソフト対策を併せて実施し、浸水被害の軽減・早期復旧を図る。

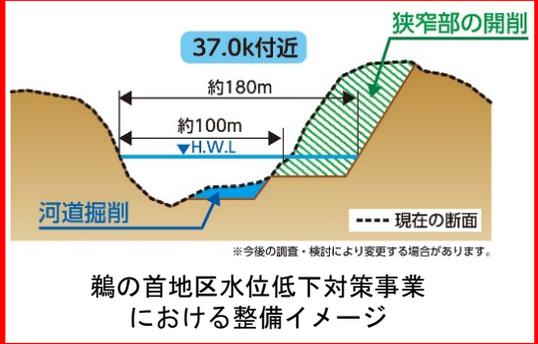
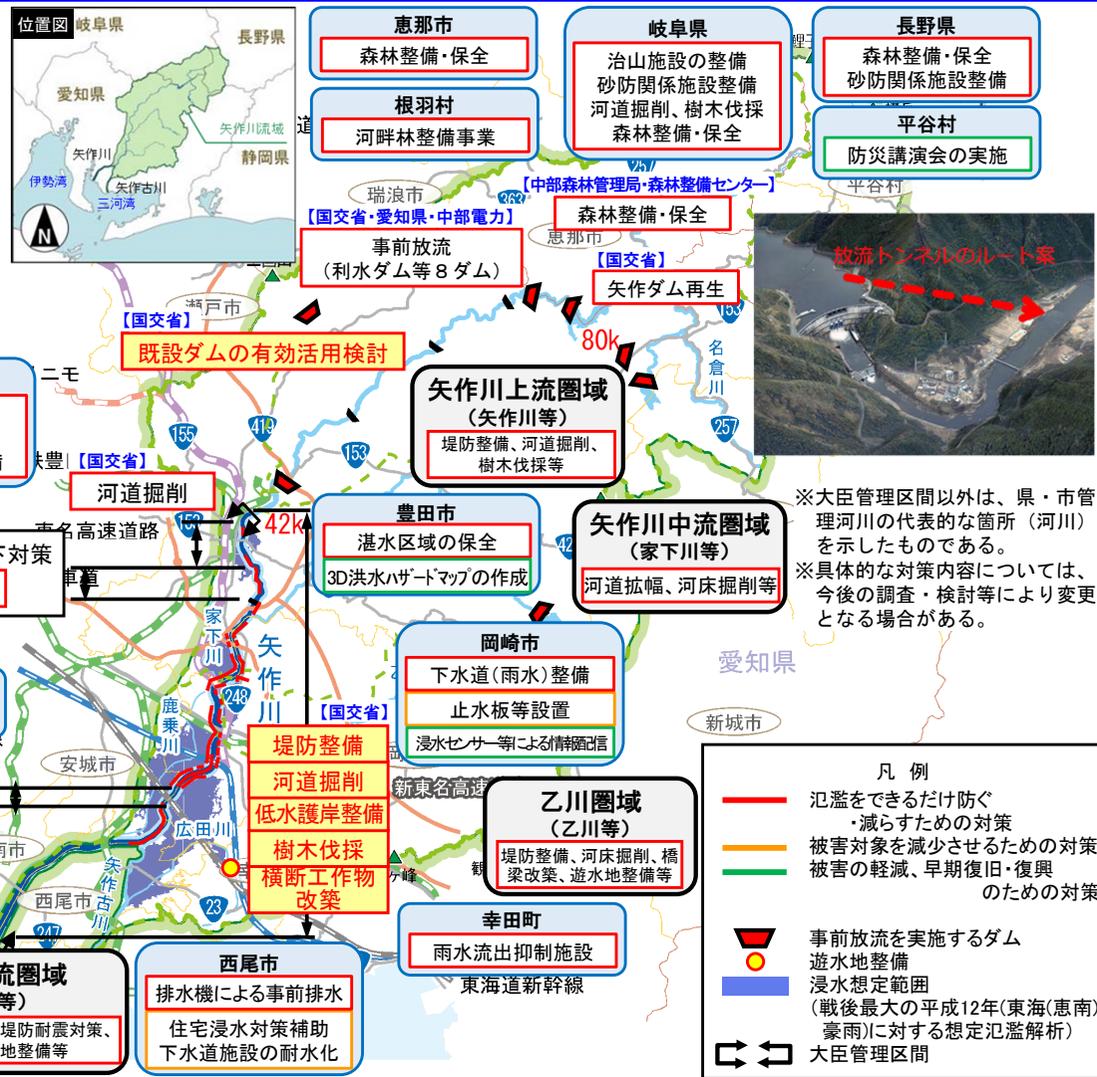
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ソフト施策の推進

【豊田市・岡崎市・安城市・西尾市・碧南市】 立地適正化計画に基づく防災指針の作成 【豊田市】 浸水実績区域等での規制強化に向けた検討 【岡崎市】 止水板等設置工事費用補助制度 【西尾市】 住宅浸水対策補助制度 【愛知県】 「みずから守るプログラム」の普及促進 洪水浸水想定区域図の作成 【豊田市・岡崎市・西尾市・幸田町】 防災出前講座の実施 要配慮者施設避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	【豊田市】 企業へのBCP作成セミナーの開催 【豊田市・岡崎市】 洪水プッシュ型情報配信・浸水センサー等による情報配信 【安城市・幸田町】 手作りハザードマップの作成 風水害ハザードマップの作成 【幸田町】 防災リーダー養成研修会の実施 【豊田市】 各自自治会へのタイムライン作成支援 【平谷村・根羽村】 防災教育・防災訓練 【岐阜県・長野県】 土砂災害リスク情報の現地表示 土砂災害警戒区域等の周知	【西尾市】 貯留区域内の避難路整備検討 【豊田市・岡崎市】 防災公園(高台避難地等)の整備検討 隣接市等への広域避難体制構築 【愛知県】 三次元管内による浸水想定の見える化 内外水統合の水害リスクマップの作成 河川防災ステーションの活用 防災拠点等の整備 広域防災ネットワークの構築 排水作業準備計画の検証 水害リスクの高い区間の監視体制の整備
--	--	---

黒字：流域治水プロジェクト(現行)
 赤字：流域治水プロジェクト2.0からの追加対策
 直轄メニューは

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。



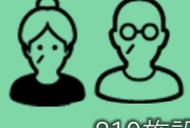
矢作川水系流域治水プロジェクト2.0

氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持)</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢作ダム再生 ・堤防整備の推進 ・粘り強い河川堤防の整備 ・河道掘削、樹木伐採の推進 ・低水護岸整備 ・横断工作物の改築 ・遊水地整備 <p>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道(雨水)整備 ・湛水区域の保全 ・森林整備・保全・水源涵養機能の向上 ・治山施設の整備 ・砂防関係施設の整備 ・河畔林の整備 <p>○多面的機能を活用した治水対策の推進</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドダム(事前放流含む)の取組の推進 ・水田貯留 <p>○既存ストックの徹底活用</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利水ダム等における事前放流等の実施、 体制構築 ・農業用ため池の活用 ・既設ダムの有効活用検討 	<p>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水ハザードエリア等における浸水対策 (止水板等設置工事費用補助、下水道施設の 耐水化 等) ・住宅浸水対策補助 <p>○溢れることも考慮した減災対策の推進</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画に基づく防災指針の作成 ・防災・減災のための住まい方や土地利用 ・土地利用規制・誘導 ・浸水実績区域等での規制強化に向けた検討 	<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持)</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点等の整備 ・広域防災ネットワークの構築 ・排水作業準備計画の検証 <p>○役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者施設の避難確保計画作成促進 ・企業へのBCP作成セミナーの開催 ・「みずから守るプログラム」の普及促進 ・防災リーダー養成研修会の実施 ・貯留区域内の避難路整備検討(冠水対策) ・防災公園(高台避難地等)の整備検討 ・隣接市等への広域避難体制構築 <p>○多面的機能を活用した治水対策の推進</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川防災ステーションの活用 <p>○インフラDX等の新技術の活用</p> <p>< 具体の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水センサーの設置・運用 ・洪水プッシュ型情報配信 ・水害リスクの高い区間の監視体制の整備 ・土砂災害リスク情報の現地表示 ・三次元管内図による浸水想定見える化 ・内外水統合の水害リスクマップの作成 ・洪水浸水想定区域図の作成

※赤字：流域治水プロジェクト1.0からの追加対策

矢作川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p>整備率：79% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>4市町村 (令和5年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>28施設 (令和4年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 19箇所 (令和5年度実施分) 砂防関連施設の整備数 1施設 (令和5年度完成分) ※施行中 26施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>1市町村 (令和5年7月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 24河川 (令和5年9月末時点) 内水浸水想定区域 3団体 (令和5年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 洪水 819施設 土砂 158施設 (令和5年9月末時点) 個別避難計画 6市町村 (令和5年1月1日時点)</p>
---	--	--	--	--	--	--

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○準用河川等の改修(豊田市)

- 長田川の合流先である、一級河川安永川の改修事業が令和2年度に完了したため、同年より事業着手。
- 川の拡幅だけでなく、調整池を整備することにより、気候変動の影響による降雨量の増加を考慮。



■安永川との合流点付近の様子



■計画平面図

○森林整備(恵那市)

- 上矢作町高井沢 1.79ha 皆伐
- 上矢作町高井沢 1.80ha 下刈り
- 上矢作町高井沢 1.44ha 植栽
- 串原鹿ノ瀬 11.97ha 間伐
- 明智町大小屋 26.720 間伐
- 明智町分取造林 4.20ha 間伐
- 明智町杉野 4.16ha 間伐
- 明智町野志 0.86ha 間伐



■森林づくりの様子

○下水道の整備(岡崎市)

- 六名地区では、乙川へ排水する「六名雨水ポンプ場」の整備完了。令和5年4月より供用開始。
- 早川・伊賀地区では、八帖雨水ポンプ場の再整備を計画。現在八帖北幹線の工事を実施しており、令和15年度のポンプ場の供用開始目標。



■六名雨水ポンプ場



■工事中の八帖北幹線

被害対象を減少させるための対策

○止水板設置状況(岡崎市)

- 平成29年に補助制度を開始し、市街化区域内にて浸水実績及び氾濫解析により浸水被害の恐れのある建物に止水板等を設置する市民に対し補助金を交付。
- 利用の促進を図るため、市広報誌・HPへの掲載、市イベント・出前講座等でPRを実施。
- 止水板とその関連工事に係る費用の1/2(上限50万円)の補助金交付。
- 令和5年度末時点で13件の補助を実施。



■止水板設置状況



○下水道施設の耐水化(西尾市)

- 荻原ポンプ場にて中高頻度の降雨規模により想定される洪水に対し、ポンプ場施設のポンプ設備及び電気施設を耐水化。



■荻原ポンプ場耐水化

○住宅浸水対策補助制度(西尾市)

- 令和4年7月の大雨による市民の要望を受けて、「西尾市住宅浸水対策改修費等補助事業」としてかさ上げ工事3件等を実施。

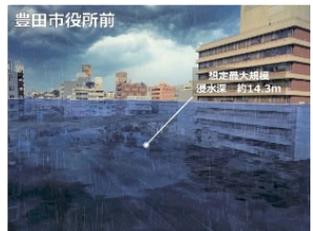


■補助事業リーフレット

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

○3D洪水ハザードマップの作成(豊田市)

- 洪水ハザード関連情報を、市民に分かりやすく理解してもらうために、R4.10に「豊田市水害情報サイト」を新たに開設。
- 浸水状況のイメージ動画によって、水害時の避難方法の事前検討ツールとして活用を想定。



■浸水イメージ画像(豊田市役所前)

○まるとまちごとハザードマップの更新(豊田市)

- 想定最大規模の降雨に対して洪水標識を更新(25箇所)。
- 令和5年度で本事業の設置は完了。今後、随時要望や検討を踏まえて更新予定。



■まるとまちごとハザードマップ画像
(左:従前 右:更新後)

○手作りハザードマップ(安城市)

- 愛知県の「みずから守るプログラム」の支援により、地域住民が主体となって手づくりハザードマップの作成や大雨行動訓練を実施。
- 手づくりハザードマップの作成は、50cm以上の浸水想定区域に該当する63地区が対象。



■手づくりハザードマップ作成

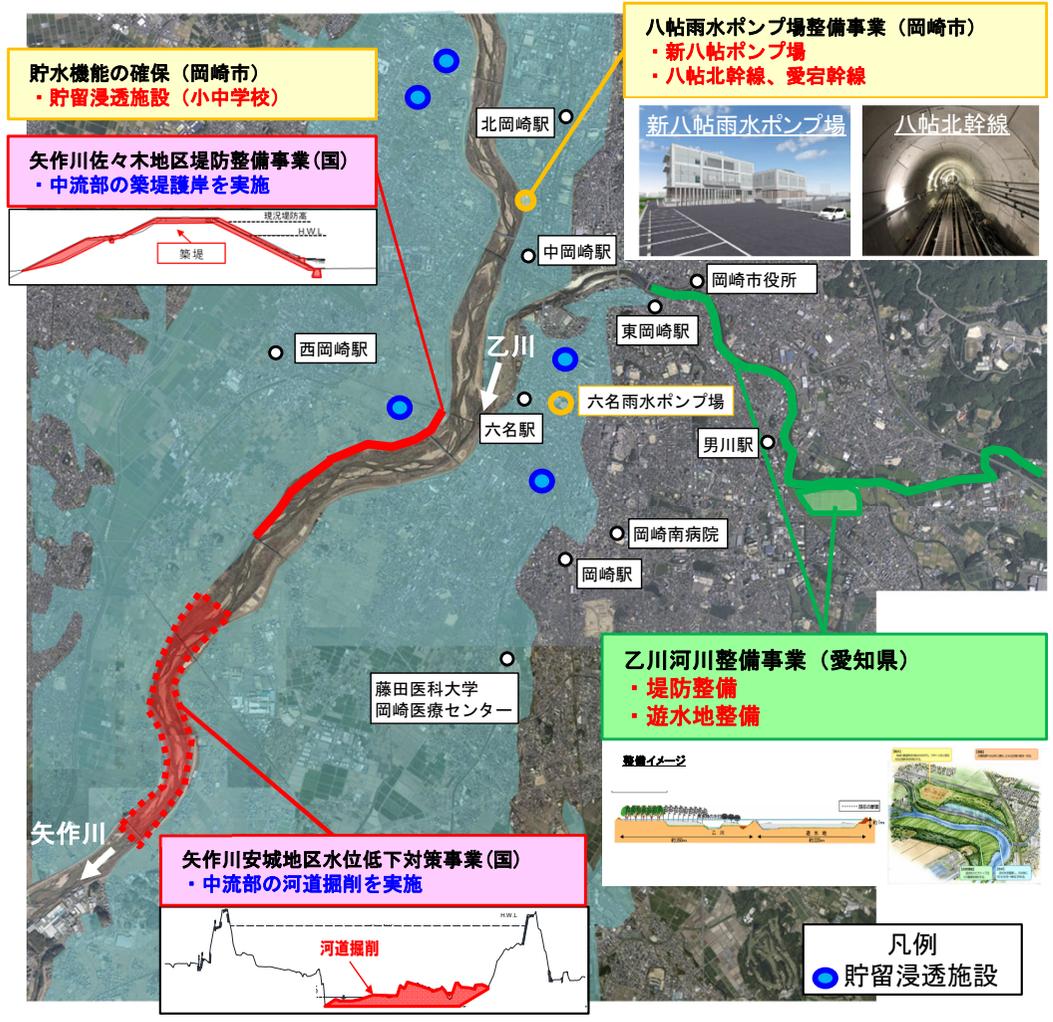
■まちあるき

流域治水の加速化・深化(見える化・協働化の推進)

～矢作川中流部整備と合わせた緊急的な雨水対策による床上浸水の被害の軽減(豊橋河川事務所・愛知県・岡崎市)～

- 岡崎市では、平成20年8月末豪雨災害を機に「災害に強く安全で安心して暮らせるまち」の実現を目指し「岡崎市総合雨水対策計画 (H28.7)」を策定し、河川改修や下水道の整備による緊急的な雨水対策を実施。現在は、元能見地区で浸水対策として、八帖北幹線及び愛宕幹線の整備を実施している。また、内水被害の軽減を目的に、岡崎市内の小中学校(8校)の校庭内に流域貯留浸透施設を設置した。
- 国の事業としては、矢作川中流部の外水氾濫を防止するため、堤防の高さ及び断面が不足している箇所を整備及び河道掘削を実施する。愛知県の事業としても、乙川の堤防整備及び遊水地整備を予定しており、国・県・市の矢作川中流域全体での浸水被害軽減を目指し、流域対策を推進する。

<国・関係自治体を実施する流域対策>
 目標：平成20年8月末豪雨と同規模の降雨に対して“いのち”を守る。(人的被害“ゼロ”、浸水被害の軽減)



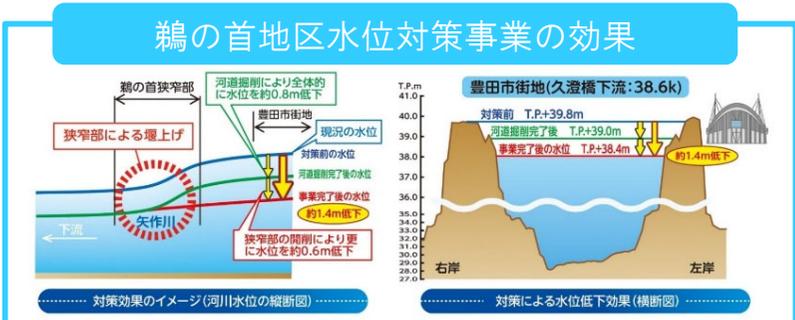
流域治水の加速化・深化(見える化・協働化の推進)

～豊田市とともに進める流域の治水安全度向上と賑わい創出(豊橋河川事務所・豊田市)～

- 豊田市市街地の浸水被害を解消するため、豊田市鵜の首地区では、「鵜の首地区水位低下対策事業」を実施。
- 国が実施する水位低下対策と合わせて、豊田市では、高台緑地(矢作緑地)の整備や平成16年策定の「豊田市総合雨水対策マスタープラン(R5.5改定)」に基づき、家屋・幹線道路等の浸水被害軽減を目的に安永川の整備(令和2年度完了)を行い、河川空間の賑わい創出と合わせ、流域市町村と協働化した整備を実施。また、内水氾濫を軽減するため、貯留機能の確保(中央公園第二期整備事業)も実施する。

<国・豊田市が実施する流域対策>

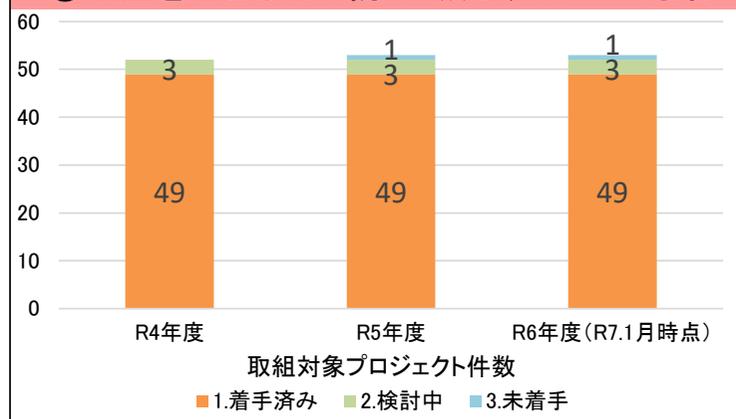
目標：平成12年9月洪水(東海豪雨)と同規模(降雨確率1/50)の降雨に対して、浸水被害を解消する。



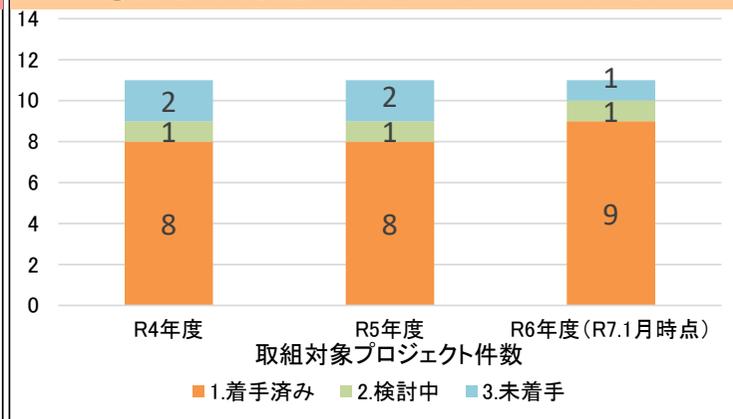
矢作川水系流域治水プロジェクト取組状況

流域治水対策の取組状況アンケート結果（R7.1月時点）

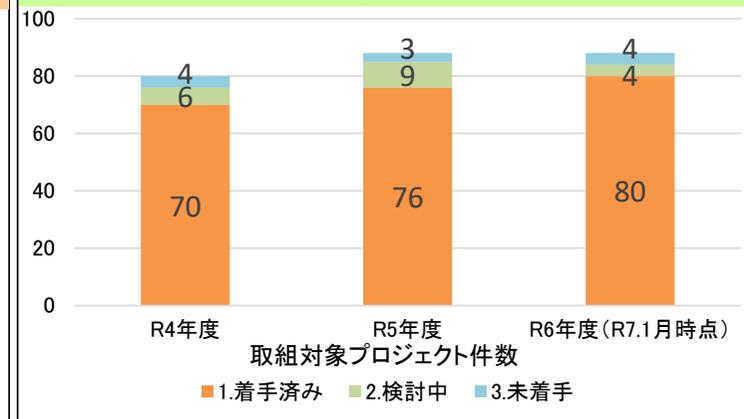
① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



② 被害対象を減少させるための対策



③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、53件中49件が着手済み、53件中3件が検討中。
- 雨水流出抑制施設による貯留・浸透機能の拡充や下水道整備、水田貯留の取組等を実施予定の機関全てで着手済み。

被害対象を減少させるための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、11件中9件が着手済み、11件中1件が検討中。
- 立地適正化計画における「防災指針」の策定検討は8割の機関が着手済み。
- 住宅浸水対策補助制度や止水板等設置工事費用補助制度等、機関ごとに対策を実施中。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、88件中80件が着手済み、88件中4件が検討中。
- 住民の主体的な避難行動を促す取り組み、早期復旧に備えた対策、ソフト対策のための整備等を実施し、着手済み件数が毎年着実に増加中。

【岡崎市】流域治水対策の取組事例 ～ 下水道の整備～

- 平成20年度に発生した集中豪雨以降、県と市が連携して河川改修や下水道の整備による緊急的な雨水対策を積極的に進めている。
- 本市では、「岡崎市総合雨水対策計画」の施策し、岡崎市防災基本条例の自助・共助・公助の理念に基づいた取り組みを行っている。
- 早川・伊賀地区では、八帖雨水ポンプ場の再整備を計画しており、現在八帖北幹線及び愛宕幹線の工事を実施している。
- 令和15年度のポンプ場の供用開始を目標としている。

◆平成20年8月末豪雨 浸水被害状況

- 岡崎市観測史上第1位
(時間最大降雨量147mm)
- 床上浸水: 1,110戸 (73ha)
- 床下浸水: 2,255戸 (333ha)
- 人的被害: 死者2名



六名地区の浸水被害状況

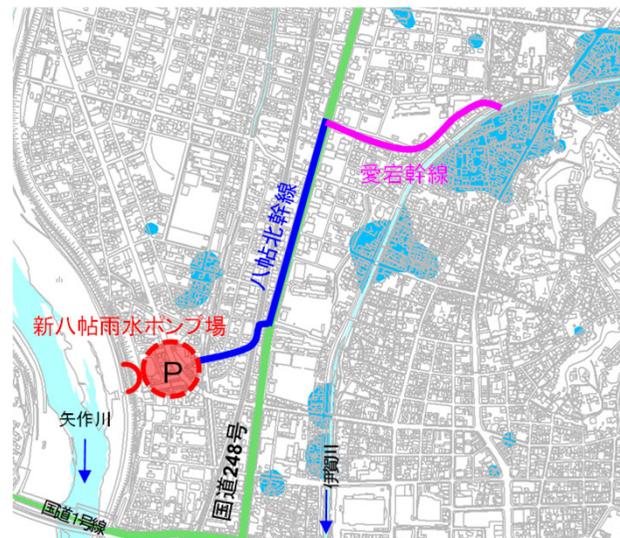


2008. 8. 29

早川・伊賀地区の浸水被害状況

◆事業概要

早川・伊賀地区の浸水対策事業



工事中の八帖北幹線

◇浸水被害状況

平成20年8月末豪雨: 床上浸水445戸、床下浸水668戸

◇整備効果

平成20年8月末豪雨規模に対し床上浸水解消

◇新八帖雨水ポンプ場整備事業

ポンプ能力: 25.0m³/秒 (ディーゼルエンジン)

対象降雨: 10年確率降雨

総事業費: 約150億円

◇八帖北幹線 (令和3年度～令和6年度)

内径φ=3,250mm、延長 1,001m

事業費約38.6億円 令和6年度末進捗率: 93.6%

◇愛宕幹線 (令和6年度～令和8年度)

内径φ=1,800mm、延長397m

事業費約16億円 令和6年度末進捗率: 15.0%



- 雨水ポンプ場や雨水幹線の整備などのハード対策は限界がある。岡崎市総合雨水対策計画では、雨水の貯留浸透能力を向上させるなどのソフト対策や、水害リスクの回避、避難体制の強化など、総合的な雨水対策を進めることで、浸水被害の軽減を図っていく。

【岡崎市】流域治水対策の取組事例 ～雨水貯留浸透施設設置補助制度事業～

- 市としては「雨を速やかに流す」から「雨を貯める、浸透させる」へ発想転換し、“より災害に強いまち”にしたいと考えています。
- その方法のひとつが“雨水貯留浸透施設設置補助制度事業”です。雨水貯留浸透施設設置補助制度を用いて、各家庭で雨水貯留することで、洪水被害を軽減させることができます。
- この事業は、雨水貯留浸透施設の設置を行うため、市民の方の協力が必要なため、HPやパンフレットを作成し、呼びかけを行っています。
- 平成16年に補助制度を開始し、公共下水道事業計画区域内にて補助制度を行っています。

◆取組内容

雨水貯留浸透施設設置補助制度事業については、下記の貯留施設にて補助を行っています。

助成対象の基準と補助について

●雨水排水専用のもので下記の基準が、同等以上の効果のものに助成します。

<p>1 既存浄化槽転用雨水貯留槽</p> <p>■用途廃止浄化槽</p> <p>補助</p> <p>① 既存浄化槽転用雨水貯留槽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽標準、工事費の1/2 ・上限90,000円 	<p>2 雨水貯留タンク</p> <p>■100ℓ以上のもの</p> <p>貯留槽(タンク等)</p> <p>補助</p> <p>② 雨水貯留タンク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体及び配管に要する材料費の1/2 100ℓ～300ℓ未満 上限30,000円 300ℓ～1000ℓ未満 上限50,000円 1000ℓ～ 上限60,000円 	
<p>3 雨水浸透ます</p> <p>■内径が70cm以上の透水性のます</p> <p>■各外壁から10m以上も20～40mmの碎石で覆う。</p> <p>■砕石の厚さを透水シートで覆う。</p> <p>■設置面に砂の厚を5cm以上設置する。</p> <p>補助</p> <p>③ 雨水浸透ます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事費の1/2 ・上限 8,000円 	<p>4 雨水浸透管</p> <p>■管径10cm以上の透水性の管材。</p> <p>■管の外径から10m以上も20～40mmの碎石で覆う。</p> <p>■砕石の厚さを透水シートで覆う。</p> <p>■設置面は砕石面全面に砂の厚を5cm以上設置する。</p> <p>補助</p> <p>④ 雨水浸透管</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事費の1/2 ・上限 8,000円 	<p>5 浸透側溝</p> <p>■管内径 15cm以上の透水性のU型側溝</p> <p>補助</p> <p>⑤ 浸透側溝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事費の1/2 ・上限 8,000円

- ①～⑤共通事項
- ・1申請当たりの補助上限額90,000円(複数項目の申請可)
 - ・千円未満の金額は切り捨てた額となります。

※※※ 注意事項 ※※※

- ・雨水をポンプで汲み上げて使用する場合、固定式ポンプのみを助成対象とします。(移動できるものは不可)
- ・雨水貯留タンクを設置する場合、基礎・架台工事及びタンク設置費等は助成対象外です。
- ・雨水浸透施設は設置してはならない区域があります。(階下・築地に近い所、側面の近接地、急傾斜地など)
- ・各施設とも、オーバーフローによる漏水先を確保してください。
- ・従来の維持管理がしやすい形状のものをご検討ください。
- ・搬送等の詳細については事前にお問い合わせください。

◆取組効果(あるいは進捗状況など)

雨水貯留浸透施設設置補助制度事業の実績については令和6年度末時点で951件の補助を実施しました。

こんな効果が期待できます

●雨水貯留浸透施設を設置すると・・・

<p>◆雨水を一時的に貯留し、河川や下水道への負担を軽減します。</p>	<p>◆雨水の活用により水道料金や下水道料金の節約を図れます。</p>	<p>◆下水道切替により不用になった浄化槽を活用し、廃棄物の減量化につながります。</p>
--------------------------------------	-------------------------------------	---

ほかにも・・・

- ◆溜めた雨水を庭木の散水等、災害時における代替水源としての利用が図れます。
- ◆雨水を地下に浸透させ、緑と水辺を保全します。



【豊田市】流域治水対策の取組事例 ～ 3D洪水ハザードマップの作成～

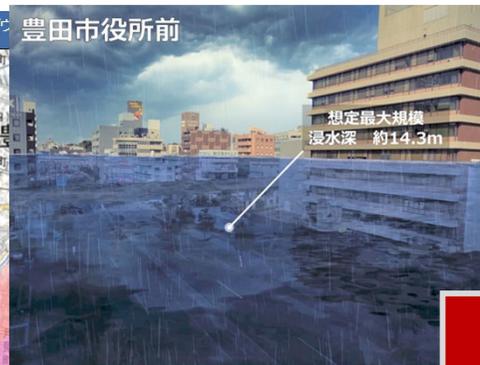
- 豊田市では、令和3年3月に洪水ハザードマップを更新している。
- 更新した紙面のマップでは、浸水被害の範囲や浸水深、避難所の場所等が確認できるものの、視覚的に平面的で、浸水時に自宅やマンション、ビルなどの建物がどの程度まで浸水するのかを直感的に理解することは困難である。
- そのため、洪水ハザード関連情報を、市民の方に分かりやすく理解してもらうために、令和4年度10月に「豊田市水害情報サイト」を開設し、想定される浸水状況をイメージ動画や画像で提供している。
- さらに直感的に水害リスクを理解してもらうために、令和4年度より3D都市モデル(PLATEAU)を活用した3D洪水ハザードマップの作成に着手した。
- 作成した3D洪水ハザードマップを水害情報サイト等を通じて公表することで、市民の方に河川氾濫等の水害リスクを正しく理解していただき、水害発生時の避難方法等を事前に考えるためのツールとしての活用が見込める。

◆取組内容

Before

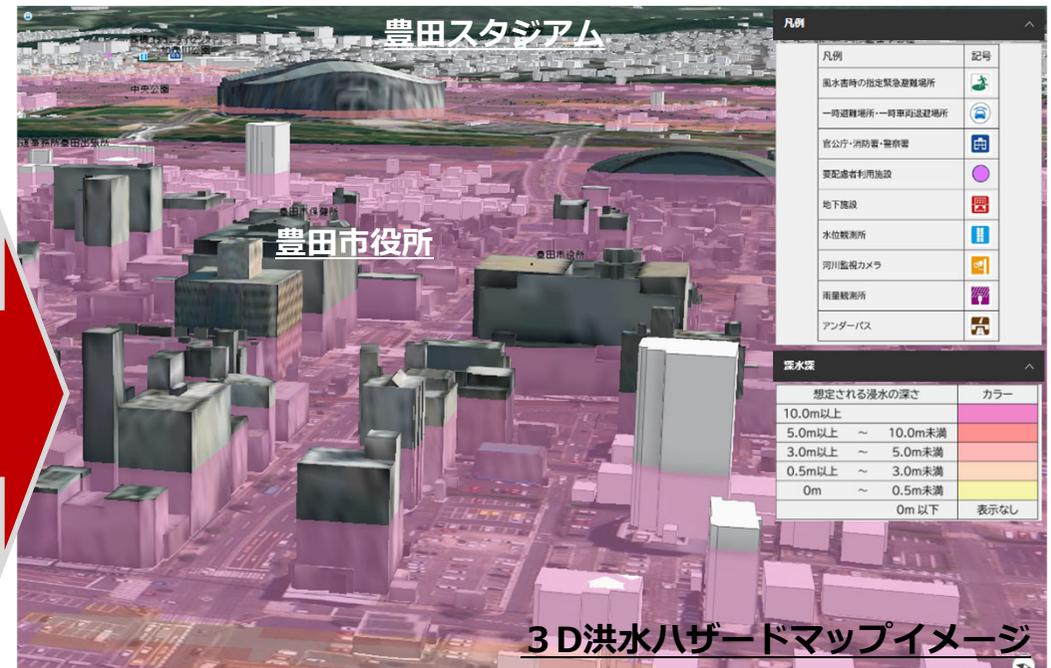


固定点での3D浸水イメージ



After

任意地点、任意視点での3D浸水イメージ



◆取組効果及び進捗状況

洪水が発生した場合の浸水状況について、任意地点および任意視点で3次元的に確認できることで、より直感的に理解できるようになる。

【進捗状況】

- 令和5年度：3D都市モデルの作成
- 令和6年度：3D洪水ハザードマップを掲載する市民向けWEBサイトの整備
- 令和7年度：3D洪水ハザードマップを掲載した市民向けWEBサイトの公開

【3D都市モデル整備状況】

- ・建築物 LOD1(市内全域)、LOD2(中心市街地のみ)
- ・道路
- ・都市計画
- ・土地利用
- ・災害リスク(洪水浸水想定区域等)

【西尾市】流域治水対策の取組事例

- 西尾市は沿岸部と海拔ゼロメートル地帯を有しており、洪水対策はもとより、津波、高潮対策も重要である。
- 浸水想定区域は広く分布しており、ハザードマップを作成し対象世帯への配布を行った。
- 市民の防災意識向上のため、各種団体や自主防災会などへの防災講座に力を入れている。
- 上記に加え、低地の排水施設として重要な下水道施設の耐水化を進める。
- また、立地適正化計画の防災指針において、災害ハザードエリアにおける開発抑制、防災施策との連携強化などを定め、安全なまちづくりを進める。

◆取組内容

- 住宅浸水対策補助制度
- 雨水流出抑制施設の整備
- 大雨が予想されたときには、かねてより排水機による事前排水で、遊水地の水位を下げています。
- 立地適正化計画において「防災指針」を策定。
- 下水道施設の耐水化。
- 自主防災会などに対し出前講座を15回実施。
- HPやパンフレットにより、防災アプリの普及を促進。
- 浸水実績のある場所に水位計・カメラ・浸水センサー等の設置。

◆取組効果(あるいは進捗状況など)

- かさ上げ工事1件、止水版等工事1件に対し補助。
- 令和6年10月末現在で、雨水タンク7件、透水性舗装1件、既設浄化槽転用雨水貯留槽1件に対し補助。
- 排水機による事前排水により、浸水区域の軽減に寄与している。
- 立地適正化計画は、令和5年4月に公表。
- 下水道施設の耐水化工事(令和5年度完了)。
- 住民の災害に対する備えなど、事前防災の意識向上が図られている。
- 浸水センサーが水位上昇を検知すると、市LINE公式アカウントから登録者に通知し、迅速な初動対応に繋がる。

住宅浸水対策補助制度

西尾市に居住の方へ
西尾市住宅浸水対策補助制度

住宅の浸水対策を
される方は
事前に申請すると
最大 **100万円** もらえます

目的	人災による住宅の浸水被害を防止するために、住宅の浸水対策に関する工事を実施するものとして、補助するものです。		
対象住宅	一戸建ての住宅、長屋、共同住宅（1階の2分の1以上が浸水想定区域のもの）		
対象者	住宅の所有権者及び借主で排水工事を行う方（費用を支出する方） ※ 販売目的の住宅に工事を行う方は対象になりません		
対象地区	過去に浸水被害があった地区が指定されている地区であり、その地区の浸水想定区域図と、洪水・内水ハザードマップで浸水が予測されている地区		
対象工事	(A) 浸水対策 改修工事	かさ上げ 床 高	高台住宅の床面改修、高台を有する住宅の床面改修（床面改修工事を含む） 床面改修工事 高台を有する住宅の床面改修工事（床面改修工事を含む）
	(B) 浸水防止 施設設置工事	止水版、止水板（壁・床下見出し・扉）、浸水防止扉の設置など	
	(C) 雨量計 設置工事	雨量計の設置、雨量計の設置にかさ上げ、雨水ポンプ、排水の改善など	
補助の額	浸水対策工事の 2分の1 の額を限度に	(A) : 上限100万円 (B) = (C) : 上限 50万円	交付決定前 に 工事着手し てはいけません 書面・契約 が必要です

お問い合わせ ☎ 0563-65-2381 西尾市 都市整備部 建築課



防災アプリ(パンフレット)

西尾市から防災情報を集約したスマートフォン用アプリを
配信しています。
もしもの場合のSOS発信、避難所の確認、地震、津波などの
災害情報を発信、防災の正しい知識、緊急時に必要なAEDの
使い方など、いざという時の備えにぜひご利用ください。

防災地図/避難所AR表示/
防災地図のダウンロード(PDF)

災害体験AR

SOS送信

主な機能を
紹介します

【安城市】流域治水対策の取組事例 ～行政情報・地域情報等の発信に関する連携～

- 安城市では流域治水対策として、水田貯留事業を推進しており、平成22年度から令和5年度末までに113haの農地で水田貯留施設の整備を行いました。
- 令和6年度は学校給食を通して水田貯留事業のPRを行いました。

◆取組内容

令和6年11月19日の「愛知と安城を味わう学校給食の日」に水田貯留を実施している田んぼで収穫されたお米を提供し、水田貯留事業のPR活動を行いました。

安城市立桜井中学校では、営農者、市職員、JA職員が訪問し、生徒たちと一緒に給食を食べながら交流を図りました。

生徒たちからは、「田んぼってすごい」「いつもよりおいしく感じる」といった声が聞かれ、有意義なPRとなりました。

また、当日は地元のCATV(KATCH)も取材に訪れ、給食を楽しむ様子が放映されました。



▲安城市立桜井中学校での交流の様子
(中央は営農者の方)

安城市教育委員会 北部調理場
南部調理場

11月19日(火)は…

愛知と安城を味わう学校給食の日

「愛知と安城を味わう学校給食の日」とは、学校給食で地場産物を使用することで、地域の食べ物を知り、より豊かな食生活を送ったり、生産者への感謝の気持ちを育んだりすることを目的として設定された日です。

そこで、19日(火)の「ごはん」には、安城市で積極的に行われている**水田貯留(田んぼダム)**の田んぼで収穫されたお米を使用しています。

『水田貯留(田んぼダム)』って何？

水田貯留(田んぼダム)とは……

みんなの住んでいる町を守る仕組みです。

大雨が降った時に……

川の氾濫して洪水が
起こるのを

田んぼが
守る!!

どうして、田んぼで町を守ることができるの？

田んぼには、いろいろな機能があり、その中の一つに**水をためる機能**があるからです。

▲当日生徒たちに配布したチラシ

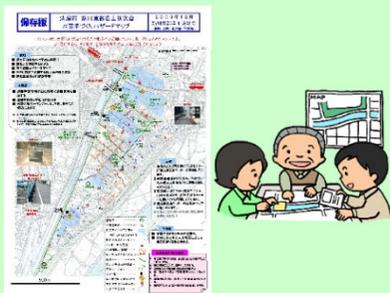
【愛知県】流域治水対策の取組事例 ～住民の主体的な避難行動を促す取組～

- 住民が水害に直面した際に、適切な行動に移せるよう、地域協働型の取り組み「みずから守るプログラム」を平成23年度より展開しています。
- みずから守るプログラムでは、町内会や自主防災会などの地域コミュニティがみずから行う「手づくりハザードマップ作成」、「大雨行動訓練」の支援を行っています。
- 情報の出し手である行政と情報の受け手である住民だけでなく、地域防災力の向上を主な活動分野としている防災NPOと連携し、三者協働で実施地域の拡大に努めています。

◆取組内容

手づくりハザードマップ

市町村が発行している“洪水ハザードマップ”を理解し、まだ行動できる段階（早期に避難できる段階）の地域地図を住民みずから作成することにより、地域の水害特性を正しく理解することを目的としております。



手づくりハザードマップ



大雨行動訓練

「手づくりハザードマップ」を活用して行動を体験し、地域の水害と防災情報の内容や活用方法を学びます。



大雨行動訓練



◆進捗状況

令和6年 みずから守るプログラム地域協働事業 実施状況

手づくりハザードマップ作成支援事業

6地区

大雨行動訓練支援事業

9地区

【岐阜県河川課】 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策～排水ポンプ車の配備～

- 近年、県内全域で頻発する浸水被害に対し、より迅速に現場に駆け付け、被害の軽減を図るため、令和2年度に県管理の排水ポンプ車を配備。
- 有事の際に円滑かつ確実な運用をするため、令和3年度から毎年排水ポンプ車の操作訓練を実施している。
- 令和6年度は、矢作川流域での運用を担っている恵那建設業協会を対象に排水ポンプ車の操作訓練を実施し、同訓練には、恵那市役所の職員も参加した。

◆取組内容

■ 県排水ポンプ車の概要

- ・配備台数 : 2台
- ・車両規格 : 8tクラス 30m³/min ポンプ車
- ・排水能力 : 総排水量 30m³/min
(5m³/min × 6台)
- ・保管場所 : 1号車
災害時応急対策用支持材備蓄拠点
岐阜サテライト拠点(岐阜市東島)
2号車
西濃総合庁舎 駐車場(大垣市江崎町)



排水ポンプ車1号車、2号車

◆取組効果(あるいは進捗状況など)

- 令和3年8月に、恵那市(小里川支川)に出動し排水活動を行った。



令和3年8月出動時の排水活動状況

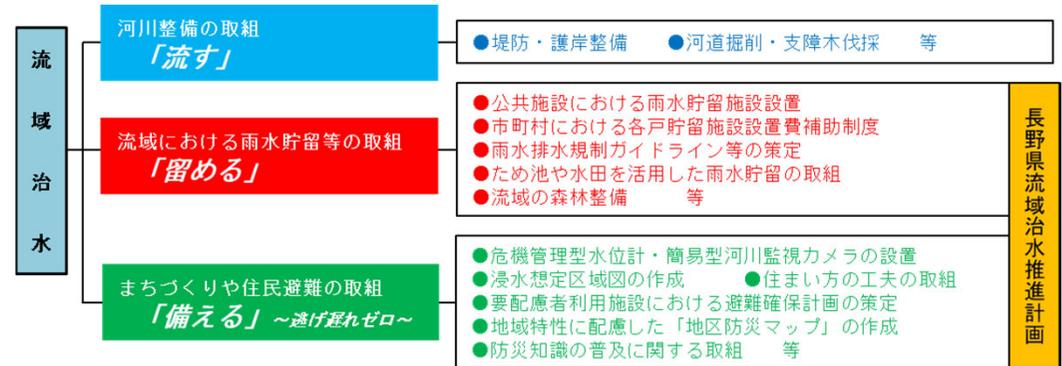
- 県管理の排水ポンプ車を用い、運搬から設営、操作、撤収までの一連の訓練を実施。



令和6年度 訓練状況

【長野県】流域治水対策の取組事例 ～模型を活用した防災教育の取り組み～

- 長野県では、令和3年2月に「長野県流域治水推進計画」を策定し、県・市町村が5年間で実施する流域治水の取組の数値目標を定め、計画的に取り組むこととしています。
- 子ども達にもわかりやすく、楽しく「流域治水」を学んでもらおうと令和5年度に「流域治水模型」や学習動画を作成し、今年度の防災教育で活用しています。



◆取組内容

- 子ども達がじょうろを使って、実際に水を降らせることで、体験しながら、流域における雨水貯留の取組である「留める」内容を学ぶことができます。
- ため池、田んぼダム、地下浸透を表現し、対策のあり無しで同量の雨(水)を降らせることで貯留機能を、視覚的に確認できます。

◆取組効果(あるいは進捗状況など)

- 防災学習やイベント等で使用
- 模型で効果を見ながら、実際に身近でできる取組を考えるきっかけを創出しています。



対策あり 対策なし
流域治水模型



防災教育



イベント

【長野県】流域治水対策の取組事例 ～地域の防災力を高める取組～

- ・激甚化する災害に備えるため、住民が災害を地区の課題として捉え自ら行動する意識付けが重要と考えています。
- ・地域の防災力を高める取組として、「我が事として捉える防災意識の醸成」と、「地区防災マップの作成支援」を実施しています。

◆我が事として捉える防災意識の醸成(赤牛先生派遣事業)

- 避難の基本「自分の命は自分で守る」を説く赤牛先生が、県下各地の公民館などで防災教育を本格展開
- 赤牛先生は、地域に根ざし、土砂災害の経験豊富な砂防専門家「長野県砂防ボランティア協会(会員約500名)」が担う
- 自身の災害経験のもと、クイズやハザードマップも使い、参加者の立場に立った、わかりやすい授業が好評
- 地区住民・役員、小学生からお年寄り、消防団・市町村の防災担当者など、幅広く参加



◆地区防災マップの作成支援

- 地域住民が主体的に避難することを目的とした「住民主導型警戒避難体制」の構築を促進
- 住民参画による地域特性に配慮した地区防災マップの作成、マップに基づく避難訓練で検証

《取組の流れ》

住民懇談会による
自主避難ルール
の策定



自主避難ルールを周知するための
リーフレットの作成



自主避難ルールに基づく
避難訓練の実施・運営



【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～鵜の首地区水位低下対策事業～

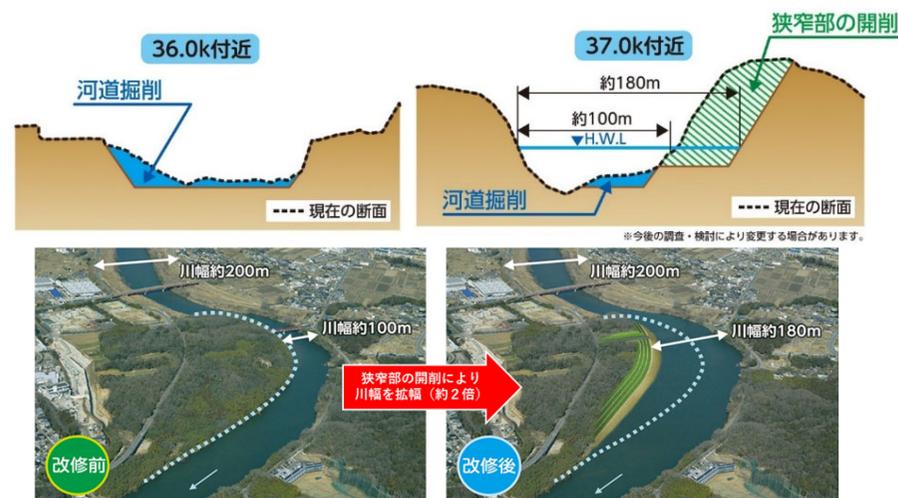
- 鵜の首地区水位低下対策事業は令和2年度より着手し、令和5年度は狭窄部の掘削を行うための前段階として樹木伐採に着手。
- 令和6年度も引き続き、狭窄部掘削の実施に向け、樹木伐採及び工事用進入路整備を実施。

◆事業概要

- 埋蔵文化財試掘調査に着手するため、伐採工事を実施しています。
- 鵜の首地区には、内山2号古墳があるため、掘削工事着手に先立ち事業箇所における埋蔵文化財調査を実施する必要があります。なお、令和4年度の埋蔵文化財調査箇所からは明確な遺跡は発見されませんでした。



【位置図】



● 鵜の首地区水位低下対策事業における整備箇所・整備イメージ

◆実施状況と整備の流れ



【③伐採後(上空から撮影) R6. 3月時点】